2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	2 学年
科目名	言語文化	所属教科	国語科	単位数	1 単位
指導概要と習得目標	言語文化に対する関心と理解を深め、論理的に考える力や共感したり想像したりする力を育成し、社会人として求められる言語能力を身につけられるよう指導し、言語文化への興味・関心を広げられる態度を育てる。「内容」に示された「知識及び技能」の二事項と、「思考力、判断力、表現力等」の二領域の学習が効率的・有機的に行えるよう指導する。				

指導計画	学期	指導事項	指導内容	時数（予定）
	1	①　小説２ ・羅生門 ②　小説３ ・夢十夜	①　ア　なじみやすい作品に触れる中で高校国語の概要を学ぶ。 イ　ノートの取り方、予復習の仕方を学ぶ。 ウ　「読むこと」にて筆者の主張の要旨を捉え、文章の構成や論理の展開などを認識し自分の考えを深める。 ②　ア　言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。 イ　学習課題にそって、登場人物の心情とその変化を読み取り理解を深める。	14 時間
	2	①　古文編 ・徒然草 亀山殿の御池に ・枕草子 うつくしきもの	ア　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 イ　古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語の決まりや古典特有の表現などについて理解する。 ウ　学習課題に沿って登場人物の心情を読み取る。	14 時間
	3	①　漢文編 ・漢詩 絶句と律詩 ・論語一八章	ア　我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 イ　漢文の特色や訓読の決まりを理解し、見通しを持って、古典を学ぶ意味について考察する。 ウ　学習課題に沿って、故事成語の元になった話を読み、故事成語の果たす役割について理解する。	7 時間

授業展開	座学を中心としながら、コンピュータを活用した語句・内容の調べ物学習を通して考察するよう工夫して指導する。
使用教材等	「新編言語文化」　東京書籍　「新編言語文化学習課題ノート」東京書籍 「常用漢字ダブルクリア」尚文出版

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、定期テストでの漢字の復習と日頃の小テストとの比較検討を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について　　※科目名の※は、学校設定科目を示します

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	2 学年
科目名	※現代語探究	所属教科	国語科	単位数	2 単位
指導概要と習得目標	言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。「内容」に示された「知識及び技能」の二事項と、「思考力、判断力、表現力等」の二領域の学習が効率的・有機的に行えるよう指導する。				

指導計画	学期	指導事項	指導内容	時数（予定）
	1	① 小説 ・ナイン ② 随筆 ・モードの変遷 ③ 小説 ・沖縄の手記 ④ 評論 ・文学の未来	① ア なじみやすい作品に触れる中で高校国語の概要を学ぶ。 イ ノートの取り方、予復習の仕方を学ぶ。 ウ 「読むこと」にて筆者の主張の要旨を捉え、文章の構成や論理の展開などを認識し自分の考えを深める。 ② ア 言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。 イ 学習課題にそって、登場人物の心情とその変化を読み取り理解を深める。	28 時間
	2	① 小説 ・山月記 ② 随筆 ・国語から旅立って ③ 小説 ・山椒魚 ④ 随筆 ・空っぽの瓶	ア 登場人物の心情を表現に即して把握し，主人公の内面と苦悩について理解する。 イ 登場人物の心情を理解しつつ，現代社会に生きる私たちが抱える問題などについて理解する。 ウ 筆者の多言語体験に基づく随筆を読み，言葉と自分との関係について考えを深める。	28 時間
	3	① 詩歌 ・夏の姿 ・竹 ・小諸なる古城のほとり ② 評論 ・演技する私	ア 象徴的な表現が示している内容を理解し，描かれた情景や心情を読み取る。 イ 文語の響きや五七調のリズムに親しみ，詩に描かれた情景や心情を読み取る。 ウ 筆者の主張の展開を押さえ，評論における作者と評論内の「私」との関係について考えを深める。	14 時間

授業展開	座学を中心としながら、コンピュータを活用した語句・内容の調べ物学習を通して考察するよう工夫して指導する。
使用教材等	「文学国語セレクション」　東京書籍 「常用漢字ダブルクリア」　尚文出版

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに，創造的に考える力を養い，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、定期テストでの漢字の復習と日頃の小テストとの比較検討を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	2　学年
科目名	公共	所属教科	公民	単位数	2　単位

指導概要と習得目標	(1)　現代の諸課題を考察し、選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を調べまとめる技能を身に付ける。 (2)　現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)　よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、(1)(2)の目標を通して養われる、現代社会に生きる人としての在り方生き方について自覚や、公民として自国を愛し、その平和と繁栄をはかることや各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力しあう大切さなどを自覚し深める。

指導計画	学期	指導事項	指導内容	時数（予定）
	1	公共の扉	(1)　社会をつくる私たち (2)　人間としてよく生きる (3)　他者ともに生きる (4)　民主社会の倫理 (5)　民主国家における基本原理	28 時間
	2	よいよい社会の形成に参加する私たち	(1)　日本国憲法に基本的性格 (2)　日本の政治機構と政治参加 (1)　現代の経済社会 (2)　日本経済の特質と国民生活	28 時間
	3	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	(1)　国際政治の動向と課題 (2)　国際経済の動向と課題 (1)　持続可能な社会めざして	14 時間

授業展開	教科書に沿い座学を中心としながら、各テーマの現状と課題をさまざまな資料から考察する。そして、現代社会の諸課題に関わる具体的な主題と問いを基に解決策を検討する。現代社会の諸課題を発見したうえで、その課題解決に向けた合意の形成をめざし、協働的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述する。
使用教材等	教科書:「公共」(実教出版) 副教材:「公共　演習ノート」(実教出版)

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・自らを成長させる人としての在り方生き方について理解する ・自らの価値観を形成するともに他者の価値観を尊重することの意義を理解 ・公共的な空間をつくるうえで必要なことを理解 ・公共的な空間での基本原理の理解 ・法の意義役割、消費者の権利と責任、政治・司法参加の意義を理解 ・市場経済システムを理解 ・持続可能な社会づくりの課題等を理解し、身につける	・人としての在り方や生き方を多面的・多角的に考察し表現する ・的な空間での基本原理を個人と社会のかかわりにおいて考察し表現する ・法、政治、経済などの側面を関連させ、解決が求められる具体的な主題を設定し、解決に向けて事実を基に協働して考察し、構想したことを表現する	・社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。 ・各単元の内容を理解しようとしている ・法や規範の意義及び役割、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・司法参加の意義，政治参加と公正な世論の形成，地方自治など現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容および提出課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒の自己評価結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	2 学年
科目名	数学Ⅱ	所属教科	数学科	単位数	3 単位
指導概要と習得目標	指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				

	学期	指　導　事　項	指　　導　　内　　容	時数（予定）
指導計画	1	◎三角関数 一般角 弧度法 三角関数 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式、不等式 加法定理 加法定理の応用 三角関数の合成	（進度によりずれることもある） 一般角の意味 三角比の拡張 度数法と弧度法の理解 定義の拡張　象限を指定し、三角関数より他の 三角関数を求める 三角関数のグラフをかき、関数の性質を考える あわせて、振幅・周期・位相を変えてみる 単位円・グラフを用いて、三角方程式・不等式を解く 公式の理解 ２倍角の公式 方程式への応用 合成の理解	42 時間
	2	◎指数関数 指数法則 指数関数とそのグラフ ◎対数関数 対数 対数の性質 対数関数とそのグラフ 常用対数	（進度によりずれることもある） 指数法則の確認　指数を正の整数から整数へ拡張する 累乗根の導入と計算を行う　公式の確認 指数を有理数（分数）まで拡張し、指数法則を用いて計算 指数関数のグラフをかき、性質を導く グラフから、大小比較や指数方程式・指数不等式を解く 指数関数から対数へ導入し、指数と対数の関係を理解する 対数の性質（公式）を用いて計算を行う　底の変換公式 対数関数のグラフをかき、大小比較や性質を導く 簡単な対数方程式・対数不等式を解く 常用対数表の用い方および常用対数の値の計算を行う	42 時間

長野県駒ケ根工業高等学校

	3	◎微分法 平均変化率と微分係数 導関数 いろいろな関数の微分 接線 関数の増減 関数の極大・極小 関数の最大・最小 方程式・不等式への応用 ◎積分法 不定積分 不定積分の計算 定積分 定積分の性質 面積	（進度によりずれることもある） 平均変化率の意味を理解し、計算を行う 関数の極限値の定義と記号を導入する 微分係数の定義と定義に基づく微分係数の計算を行う 導関数の定義、定義に基づく導関数の計算を行う 微分法の公式、公式による整関数の微分を行う 微分係数と接線の関係を調べ、接線の方程式を求める 接線の傾きと関数の増加、減少の関係を調べる 増減表極大値・極小値を求め、グラフをかく 極値から未定係数の決定する 区間における関数の最大値・最小値を求める 方程式の実数解の個数を調べる　（不等式の証明） 不定積分の定義、基本的な不定積分の公式を導入する 不定積分の計算を行う 定積分の定義を導入する 公式を用いた定積分の計算を行う 定積分の性質を調べ、それを用いた計算を行う 面積と定積分との関係を調べる Ｘ軸と曲線・直線で囲まれた部分の面積を計算 曲線と直線、曲線と曲線で囲まれた部分の面積を計算	21 時間

授業展開	基本的には講義形式で行うが、併せてプリント学習で演習授業を取り入れる。 各科とも共通の教材、試験問題を使用、成績も一律並行して評価する。 定期テスト、授業態度、課題等を考慮して、評価する。 必要に応じて、追試、補習によって学力の補充を行う。
使用教材等	教科書「最新 数学Ⅱ」(数研出版)、問題集「3ROUND」(数研出版)、プリント、各種教具を使用する。 教科書・問題集は全員購入する。

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を理解している。 指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分を用いて、表現・処理する技能を有している。	関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察し，関数の局所的な変化に着目して事象を数学的に考察しようとしている。 問題解決の過程を適切に表現し，結果を振り返って統合的・発展的に考察することができる。	学習した内容を積極的に利用しようとしている。 粘り強く問題に取り組む姿勢を有するとともに、課題等へ主体的に取り組んでいる。
主な評価方法	・定期考査 ・課題の内容	・定期考査 ・課題の内容	・授業への取り組み ・課題への取り組み

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	全学科	指導学年	2 学年
科目名	物理基礎	所属教科	理　科	単位数	3 単位
指導概要と習得目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーに関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。				

指導計画	学期	指　導　事　項	指　　導　　内　　容	時数（予定）
	1	1 章　物体の運動 1 節　運動の表し方 2 節　力と運動の法則	・直線運動における変位，速度，加速度などの運動の表し方を理解する。 ・等加速度運動における「時間と変位」「時間と速度」の関係を理解する。 ・自由落下運動や鉛直投げ下ろし運動，鉛直投げ上げ運動の「時間」「速度」「変位」の関係式を理解する。 ・力とは何か理解する。	42
	2	1 章　物体の運動 2 節　力と運動の法則 2 章　エネルギー 1 節　運動とエネルギー 2 節　熱とエネルギー 3 章　波 1 節　波の性質	・運動方程式を立てて，物体の運動のようすを調べる。 ・エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し，一定の条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。 ・巨視的に見た熱の正体，微視的に見た熱の正体を理解する。 ・物質の三態や温度について理解する。 ・熱容量や比熱について理解する。 ・熱力学第一法則について理解する ・波とは，媒質の振動が次々と時間をかけて伝わっていく現象であることを理解する。	42
	3	3 章　波 1 節　波の性質 4 章　電気 1 節　物質と電流 2 節　磁場と電流 5 章　人間と物理 1 節　エネルギーとその利用	・波には横波と縦波があることを理解する。 ・波の重ねあわせの原理を理解する。 ・電流と電気量について理解する。 ・直流と交流の違いを理解する。 ・電磁誘導について理解する。 ・放射能・放射線について理解する。このとき，放射能・放射線の単位や放射線の利用法，その安全性についても理解する。	21

授業展開	基本的には講義形式で行うが、併せて「授業のまとめ」のノートづくり。問題集の演習。 定期テスト、実験、レポート等を考慮して、評価する。
使用教材等	教科書：「高校物理基礎」（ 実教出版） 「高校物理基礎エブリィノート 授業のまとめ」　実教出版 「高校物理基礎アクセスノート」　実教出版

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・物体の運動とさまざまなエネルギーについて，基本的な概念や原理、法則を理解し，知識を身に付けている。 ・物体の運動とさまざまなエネルギーに関する観察，実験などを行い，基本操作を習得するとともに，それらの過程や結果を的確に記録，整理し，自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。	物体の運動とさまざまなエネルギーに関する事物・現象の中に問題をみいだし，探究する過程を通して，事象を科学的に考察し，導き出した考えを的確に表現している。	・日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動とさまざまなエネルギーについて関心をもち，意欲的に探究しようとする。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	定期テストや小テストの解答の内容実験のレポート内容を総合的に判断して評価する。	授業や実験等に取り組む態度を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	機械科・電気科・情報技術科	指導学年	2　学年
科目名	体育	所属教科	保健体育科	単位数	2　単位

指導概要と習得目標	（1） スポーツの特性に応じた体力や技能を身に着け、ルールの理解と、健康や安全に留意しながら運動を親しむ（知識・技能） （2） 運動について、自身や仲間（グループ）の課題を見つけ、解決に向けて思考判断しながら他者との対話ができる力を身に着ける（思考力・判断力・表現力） （3） 互いに協力して授業を進める中で、協調性を育てるとともに、運動の楽しさや喜びを感じることができる（学びに向かう力）

	学期	指　導　事　項	指　　導　　内　　容	時数（予定）
指導計画	1	(1) 体つくり運動 (2) 球技 (3) 体育理論	ア　スポーツテスト ア　ソフトボール イ　卓球 ア　運動・スポーツの学び方　①	28 時間
	2	(4) 水泳 (5) 陸上 (6) 球技 (7) 体育理論	ア　クロール イ　平泳ぎ　　ウ　背泳ぎ ア　持久走 ア　バレーボール イ　サッカー ア　運動・スポーツの学び方　②	28 時間
	3	(8) 球技 (9) 体育理論	ア　バスケットボール イ　バドミントン ア　運動・スポーツの学び方　③	14 時間

授業展開	基本的な技術の習得を中心に授業を展開。また個々の能力に応じた目標を設定する。
使用教材等	現代高等保健体育（大修館書店）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・競技のルールを理解し、安全なゲームの運営に協力する ・技能を習得し、実践する	・他者と協力してチームプレーを行う。また、そのための良好なコミュニケーションをとる ・自身の目標を適切に設定する	・実技に取り組むだけでなく、競技の運営や、準備・片付けも積極的に行うことができる ・体を動かすことや課題を解決することに喜びや楽しみを見いだすことができる
主な評価方法	・ルールや知識の理解（ゲーム運営） ・実技テスト	仲間とのコミュニケーションやグループワーク、チームワークなどを通し思考力や表現力を発揮できているか評価を行う。	準備、片づけやゲームの運営（審判）を仲間と協力して行うなど、授業へ向かう姿勢を総合的に評価する。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	機械科・電気科・情報技術科	指導学年	2　学年
科目名	保健	所属教科	保健体育	単位数	1　単位
指導概要と習得目標	（1）　個人や社会生活における健康・安全について理解を深め、知識を身に着ける（知識・技能） （2）　健康について自他や社会の課題を見つけ、解決に向けて思考、判断するとともに、他者との対話ができる力を身に着ける（思考力・判断力・表現力） （3）　生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。（学びに向かう力）				

指導計画	学期	指　導　事　項	指　　導　　内　　容	時数（予定）
	1	⑶ 生涯を通じる健康	・ライフステージと健康 ・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・妊娠・出産と健康 ・避妊法と人工妊娠中絶 ・結婚生活と健康 ・中高年期と健康	14 時間
	2	⑶ 生涯を通じる健康 ⑷ 健康をささえる環境づくり	・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活 ・大気汚染と健康 ・水質汚濁、土壌汚染と健康 ・環境と健康にかかわる対策 ・ごみの処理と上下水道の整備 ・食品の安全性 ・食品衛生にかかわる活動	14 時間
	3	⑷ 健康をささえる環境づくり	・保健サービスとその活用 ・医療サービスとその活用 ・医薬品の制度とその活用 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加	7 時間

授業展開	単に知識として終わらせることなく、日常生活の中でいかせるように教材等工夫していく。
使用教材等	最新高等保健体育（大修館書店）、最新高等保健体育ノート（大修館書店）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	・それぞれの単元について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に着けている	・健康や安全の課題について解決を目指して思考している ・グループワークにおいて自身の意見を主張したり、他者の意見に耳を傾けたりする事が出来る	・自身や社会生活の安全や健康に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

主な評価方法	・授業プリントへの取り組み ・テスト	・仲間とのコミュニケーション ・グループワークへの取り組み	・授業、グループワークへ臨む姿勢 ・授業プリント、ノートへの取り組み

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	機械科・電気科・情報技術科	指導学年	2 学年
科目名	英語コミュニケーションⅡ	所属教科	外国語	単位数	3 単位
指導概要と習得目標	英語を通して、情報や他人の考えを的確に理解し、自分の考えを簡単な表現で伝える能力を伸ばす。また、英語の基礎力（関係詞・過去完了形を含む）を週 3 回の授業を通じ養成する。進学を希望する生徒もいることから、４年制大学での学習の基礎となる英単語をできる限り多く、学習する。				

	学期	指　導　事　項	指　　導　　内　　容	時数（予定）
指導計画	1	1. want など+(人)+to-不定詞 2. 疑問詞+to-不定詞 3. 分詞 4. if 節・疑問詞節 5. seem+to-不定詞	1. ダイキとエラが互いが訪れた場所（屋久島とカッパドキア）についてメールで紹介する　2. 動物写真家 岩合光昭さんが、撮影において重要だと気づいたことや撮影のコツを語る　3. ニュージーランドからの留学生マイアが、マオリ族の伝統舞踊「ハカ」について発表する　4. ハルカとダイキがデジタル機器との関わり方に関する記事を読み、意見を交換する　5. 目標を達成するために効果的な目標設定のしかたを紹介	42 時間
	2	6. 助動詞+have+過去分詞 7. 過去完了形（経験・完了・継続・大過去） 8. 関係代名詞 what 9. 関係副詞（where / when） 10. 使役動詞（make / let / have）	6. 高校生が運営する美容室で働く生徒たちへのインタビュー　7. バリ島に住むメラティとイザベルの姉妹によるレジ袋撤廃運動　8. 命令や強制ではなく、小さな工夫で人の行動に影響を与える「ナッジ」の活用例を紹介 9. 世界中で使われる点字ブロックの開発者、三宅精一氏　10. 海外の人から見ると奇妙にも見える日本のサービスについて、留学生が議論する	42 時間
	3	11. 知覚動詞+O+動詞の原形 / ～ing 12. 仮定法過去・仮定法過去完了	11. 小さな会社が作る、世界に求められる製品を紹介　12. テロリストの銃弾にも屈せず教育の大切さを訴え続けるマララ・ユスフザイの物語	21 時間

授業展開	教科書・コーパス 3000・ベーシックノートを使用した授業を原則とする。
使用教材等	COMET English Communication Ⅱ　数研出版 コーパス 3000　東京書籍 ベーシックノート（数研）、配付するプリント教材

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	取り上げられた語句（教科書内・コーパス 3000）の意味を理解したうえで、正しく発音する技能を身につけている。 取り上げられた語句を適切な文脈において使用する技能を身につけている。	自分の気持ちや考えを伝えるために、短い英文を書いたり口頭で発表している。	本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。自分の気持ちや考えを伝えるために、学習した文法事項を参考にして、短い英文を書いている。
主な評価方法	定期テスト（コーパス 3000 の出題範囲を含む）や提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	定期テスト（コーパス 3000 の出題範囲を含む）や提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。JTE との対話内容(speaking)。	自分の身の回りの事や出来事について、情報や考えを整理して発表できるかを評価する。生徒が自己評価を行った結果も参考にしながら総合的に判断して評価する。出席率。授業中の形成的評価。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標

学校名	駒ケ根工業高等学校
作成	令和５年　11 月

＊目標として設定するのは「生徒の８割が到達できる」レベルです。

【卒業時の学習到達目標】

身近なことや興味あることについて要点を理解したり、それについて簡単な英語を用いて自分の考えを表現することができる。

【第３学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
易しい英語で書かれた身近なことや工業に関する文章を、何度も読み返せばあらすじや要点を理解することができる。	身近なことについて、ゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	身近なことについて、簡単な英語で自分の考えを表現することができる。	身近なことや興味あることについて、簡単な英語で伝え合うことができる。	身近なことや興味あることについて、簡単な英語で自分の考えを発表することができる。

【第２学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
易しい英語で書かれた物語や身近なことに関する短い文章を、イラストや写真を参考にすれば、あらすじや要点が理解できる。	身近なことや工業高校に関する話題について、簡単な英語でゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	自分自身のことや身近なことについて、簡単な英語で短く書くことができる。	定型のあいさつや身近な話題について、簡単な英語で伝え合うことができる。	自分自身のことや身近なことについて、簡単な英語で発表することができる。

【第１学年】

読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］
学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標	学習到達目標
身の周りにある簡単な単語や語句を読み、それらが意味することをおおよそ理解できる。	身近なことについての簡単な情報を、ゆっくりはっきり話されれば理解することができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で短く書くことができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で伝え合うことができる。	自分自身のことについて、簡単な英語で発表することができる。

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

課程	全日制課程	対象学科	機械科・電気科・情報技術科	指導学年	2　学年
科目名	家庭総合	所属教科	家庭	単位数	2　単位
指導概要と習得目標	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に学習し、生活課題に取り組む実践的な態度を身につける。２年間に分け、２年次は、高齢者の福祉、衣生活、食生活、環境問題、消費生活等について実験実習、作品製作を取り入れながら学習する。				

	学期	指　導　事　項	指　　導　　内　　容	時数（予定）
指導計画	1	第４章　超高齢社会を共に生きる 1　超高齢・大衆長寿社会の到来 2　高齢期の心身の特徴 3　高齢者の自立を支える 4　これからの超高齢社会 第５章　共に生き、共に支える 1　私たちの生活と福祉 2　社会保障の考え方 3　共に生きる 第９章　経済生活を営む 1　情報の収集・比較と意思決定 2　購入・支払いのルールと方法 3　消費者の権利と責任 4　生涯の経済生活を見通す 5　家計をマネジメントする 6　これからの経済生活	・超高齢社会の背景を理解するとともに、家族や地域によるどのような支援が必要か学ぶ ・加齢に伴う心身の変化や生き方や尊厳について理解を深め、高齢期を支える社会の仕組みや課題について学ぶ ・適切な支援の方法や関りを学ぶ ・超高齢社会の課題を理解する ・家族・家庭生活を支える福祉について学ぶ ・多様性を発揮して共に豊かに暮らせる社会に向けて、個人や地域の役割について学ぶ ・自立した責任ある消費者として、よりよい意思決定ができるよう、現代の消費生活における意思決定の重要性と情報の活用について理解する。 ・毎日の生活におけるさまざまな契約について理解する。 ・販売方法や支払い方法が多様化する中で責任ある消費者行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者には権利と責任があることを理解する。 ・生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・生涯を見通して家計をマネジメントする力をつけるため、家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。	２０時間
	2	第６章　食生活をつくる 1　食生活の課題について考える 2　食事と栄養・食品 3　食品の選択と安全 第７章　衣生活をつくる 1　被服の役割を考える 2　被服を入手する	・自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的性質や調理性について、科学的な理解を深める。 ・安全で衛生的な食生活を営むために食品の選び方、保存や加工の方法、食中毒や食物アレルギー、安全を確保するための仕組みに関する知識を身につける ・被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解する。 ・社会生活をいとなむうえでの被服の役割を理解する。 ・被服の材料や性能、加工について科学的に理解する。	３６時間

長野県駒ケ根工業高等学校

2025 年度　教科授業計画と評価について

指導計画	2	3　被服を管理する 4　被服を作る 5　衣生活の文化と知恵 6　これからの衣生活	・被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 ・素材と管理の知識を応用しながら、目的に合った被服を製作する。 ・日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装について理解する ・資源の消費の視点で衣生活を見直す	
	3	8章　住生活をつくる 1　住生活の変遷と住居の機能 2　安全で快適な住生活の計画 3　住生活の文化と知恵 4　これからの住生活	・生涯を見通した住生活について考え、将来に向けて自立するために、私たちの毎日の生活を支え生活拠点ともなる住居の機能やライフステージごとの住要求を理解する。 ・自らの住生活に生かすことができるよう、防災、日照、換気などに関する環境性能について理解を深め、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・日本の住文化の継承・創造に寄与するために、気候や風土の違い、時代の変化によって、大きく異なる世界や日本のさまざまな住文化について理解する。	１４時間
授業展開	座学を中心としながら、生産技術の進歩と社会の変化との関連について、実験・実習を通して考察するよう工夫して指導する。			
使用教材等	「新　家庭総合　自立・共生・創造」　東京書籍			

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関りについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身につけている。	生涯を見通して、家族や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
主な評価方法	定期テストや小テストの結果および提出する課題の結果を総合的に判断して評価する。	授業プリントおよび提出する課題の内容を総合的に判断して評価する。	授業に取り組む態度や発言内容を評価するとともに、生徒が自己評価を行った結果を参考にしながらこれらを総合的に判断して評価する。

長野県駒ケ根工業高等学校